



令和3年5月10日（月）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
博物館	人文係	立花 昭	代表 0575-28-3111 内線 301 FAX 0575-28-3110

明治時代の名工・成瀬誠志（なるせせいし）によって、1893年のシカゴ万博に出品された陶製「陽明門」の一部が滋賀県内で発見されました

■成瀬誠志と陶製「陽明門」

- 成瀬誠志は茄子川村（現中津川市茄子川）に生まれ、美濃と東京で作陶、陶器絵付けをおこない、名工とたたえられた人物。
- 1893年のシカゴ万国博覧会に際して、茄子川で3年もの歳月をかけて精巧な陶製「陽明門」を制作し出品。しかし、輸送中に荷崩れを起こして大破してしまい、その一部しか会場に展示されなかったものの、見事な出来栄が評価されて銅賞に輝やく。
- これらは現在、中津川市苗木遠山史料館^{なえぎとおやま}で大切に保管されている。

■陶製「陽明門」の陶片発見と公開について

- この陶片の一部が滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場で発見され、近代窯業の一端を解くものとして、同県において5月7日（金）に別添資料の発表がおこなわれた。
- 5月14日（金）には一般公開にあたって、報道機関向けに滋賀県立陶芸の森 陶芸館において、同試験場で発見された陶片と中津川市の陶片の説明会が開催される。



滋賀県で発見された陶片

■岐阜県との関り

- 本陶片の調査段階で、岐阜県博物館が協力を行なった。
- 県内における成瀬誠志の作品は、前出の中津川市苗木遠山史料館以外に、岐阜県博物館、岐阜県現代陶芸美術館（この両館の作品は東京時代に制作された、「東京薩摩」^{※1}と呼ばれるもの）などでも所蔵。
- 岐阜県博物館では今夏、特別展「薩摩の陶と刀（さつまのとうととう）」（7月23日～9月26日）のなかで、成瀬の作品を参考出品として紹介する予定。岐阜県現代陶芸美術館でも7月25日まで1点展示中。

※1 東京薩摩とは、幕末から明治初期にかけて、金彩をとまなう絢爛豪華な薩摩焼が海外に輸出されて人気を博したことから、全国各地で薩摩焼風の陶磁器が製造されるようになり、うち東京で作られた（多くは、素地は薩摩などから仕入れて絵付けのみされた）ものを指す。

問い合わせ先 岐阜県博物館（電話0575-28-3111（代））
滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場（電話0748-82-1155）
滋賀県立陶芸の森 陶芸館（電話0748-83-0968）

岐阜県博物館

検索